

## 発明家的発想でアイデアを生む方法！

11/14 に第2回目を開催。

今回のテーマは、アイデアを生む方法。

通常、いいアイデアを1人で生むことは難しいです。

そのため、一般的には多くの人が集まり、考えをつなぐことで、ワクワクするアイデアが生まれます。今回も大切なことは、相手を尊重する「対話」の考え方。

## 常識を疑う「本当にそうなのか？」



考える上で、まずは世の中の常識を疑うことが大切です。

例えば、サンタクロースの服の色の話。

「サンタさんの服の色は？」と聞かれたら、私たちは何も疑わずに「赤色」と答えます。しかしこれは、某飲料メーカーがクリスマス商戦で、企業カラーの赤を広告したことで根付いたイメージと言われています。赤が常識になっていますが、本来は緑色もあれば茶色もある。これは、常識が正しいかどうかは分からない一つの例です。世の中には他にも同じことがたくさん溢れています。

「そもそも、どうして？」「本当に？」と思いを疑ってみることが、アイデアを発想するきっかけになります。

## アイデアの作りかた 3つの方法

- ①問題解決法
- ②水平思考法
- ③組み合わせ法

①は日本人が一般的に得意なもの。例えば、鉛筆が丸で床を転がる。その課題解決のため六角にするなどです。

一方、私たちは②、③が比較的苦手としています。

②は、ある分野のものを別の分野に持っていくという考え方。例え話が上手な人はよく使っています。

「国の借金を家計に例える」などがそうですね。

③は、あるものとあるものをつなげる方法。今回の講座で、③を実際に体験して面白さを学びました。この考え方が習慣になると日常の全てがアイデアの種になります。

### 【担当が感じたポイント】

なぜ、多様性が大切なのか。それはアイデア（考え）が広がるため。

組み合わせ法をやる中で、なるべく遠くて異なる考えが混ざったほうが面白かったです。年齢や職業、住む場所が異なると出てくる考えもさまざま。考えが多様なほどアイデアが膨らみ、それはまちづくりや普段の仕事でも同じです。多様な視点、大切にしたいですね。



### コップ半分の水を見てどう思う？



「半分も入っている？」

or

「半分しか入っていない？」

コップ半分、水が入っている状態。同じものを見ても人によって捉え方が異なります。

私たちは、事実に関心を持って物事を捉えています。

相手の考えと異なるとき、「なぜ、そう思うの？」と問い、相手の考えの背景を知ろうとすることが大切です。

### 実際にやってみた「組み合わせ法」

【やり方】

- ①5人ほど集まる。(多いほうがいい)
- ②付箋に質問の答を書く。(例：好きなもの、行った場所等)
- ③似てないけど、近づいたら面白いものを直感で近づける。
- ④近づいたものに意味づけをする。

例えば、「サウナ」「ドライブ」「バス」など関係ない事柄。そこから、「サウナツアーinバス」(バス自体がサウナ!)というアイデアが！



【編集・担当】  
地域振興課自治振興係  
渡邊 直也